

# 教育研究業績書

2018年05月14日

所属：看護学科

資格：教授

氏名：町浦 美智子

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学、助産学	思春期から更年期までの看護支援、セクシュアリティ
学位	最終学歴
博士(看護学)	カリフォルニア大学サンフランシスコ校博士課程看護学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 家族支援論：母性Ⅱにおける事例展開用の教材作成	2013年04月2016年03月	前任校の母性看護学実習で使用している記録形式を母性看護学の事例展開にも導入し、基本情報の記載形式は助産学実習でも使用できるようにした。また事例展開用に「家族支援論・母性Ⅱ事例演習教材」を作成し、演習で使用した。
2. 母性看護学概論における父性に関する読書	2012年04月2018年03月	父性の概念理解のために、父性に関する本を読み、読書感想文を提出させている。学生は父性について初めて学ぶため、さまざまな観点から選書しており、父性の理解に役立っている。前任校で開始し、現在も継続している。
3. 助産診断技術学ⅡにおけるPBLの導入と事例展開用の教材作成	2012年04月2016年03月	前任校の助産診断技術学Ⅱにおいて3～4名のグループワークにPBLを導入し、学生が問題解決に基づき自主的な学習態度を身につけ、助産過程を展開できるようにした。2013年度は過去の教材を冊子化し、「助産診断技術学Ⅱ 事例演習教材」を作成し、演習で使用した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 助産学実習プレブック 助産課程の思考プロセス	2015年11月	事前母性看護実習プレブックの助産編として助産学実習で助産過程を展開するプロセスについて、分娩期を中心に正常経過をたどる初産婦と経産婦、新生児、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、多胎等の看護について執筆した。
2. 助産診断学Ⅱ PBL用事例	2013年04月	助産診断学ⅡのPBLで使用する事例を教材化した。
3. 助産師基礎教育テキスト 第5巻	2013年02月以降、毎年改訂	分娩期の診断とケアについて、助産師が行う分娩期のケアの基本的な考え方、分娩第1期～4期までの経過に伴う診断・アセスメントとケアについて、最新のデータ、エビデンスを紹介しながら毎年改訂している。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会委員	2013年04月～現在	母性看護専門看護師教育課程認定委員会の委員として教育課程の認定に携わっている。2011～2013年度まで母性看護分科会の委員長を務め、2014年度以降は副委員長を務めている。
2. 保健師助産師看護師試験委員 ブラッシュアップ委員会	2012年04月～2013年03月	過去8年にわたり主に助産師国家試験問題に関して、過去問題や公募問題の内容のブラッシュアップに努めた。
<b>4 その他</b>		
1. マヒドン大学との交換プログラム	2015年9月24日2015年10月7日	タイ王国のマヒドン大学との提携により修士の学生4名（母性・小児看護学分野）に対して国際交流委員及び分野としてプログラムの企画や研修施設との調整等を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 性教育認定講師	2016年11月1日	日本思春期学会会員が学校現場と連携し、性教育を円滑に実践できることを目的とした認定制度で、4回の講習会を受講する必要があり、10年間有効の資格である。
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会委員	2013年04月～現在	母性看護専門看護師教育課程認定委員会の委員として教育課程の認定に携わっている。2011～2013年度まで母性看護分科会の委員長を務め、2014年度以降は副委員長を務めている。
2. 保健師助産師看護師試験委員 ブラッシュアップ委員会	2012年04月～2013年03月	過去8年にわたり主に助産師国家試験問題に関して、過去問題や公募問題の内容のブラッシュアップに努めた。
<b>4 その他</b>		
1. まちの保健室活動への参加	2017年10月11月	2017年4月から開始しているまちの保健室活動に10月と11月に血圧測定等を含む相談員として参加した。
2. 男女共同参画推進室による第9回ランチセミナー講師	2016年7月25日	本学教職員を対象に「仕事と健康 知っているようで知らない女性のからだの変化を識ろう」のテーマで、女性

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
<b>4 その他</b>				
		のライフステージの変化やライフサイクルにおける健康課題・問題について講演した。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 2018年版	共	2018年2月	日本看護協会出版会	担当箇所：責任編集および分娩期の診断とケアについて、第1章助産師が行う分娩期の基本的な考え方（p. 2-11）、第4章分娩第1期から4期間での経過に伴う診断・アセスメントとケア（p. 104-145） 大橋一友、佐々木くみ子、中嶋有加里、中野美佳、町浦美智子、村上明美、田村正徳
2. 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 2017年版	共	2017年02月	日本看護協会出版会	担当箇所：責任編集および分娩期の診断とケアについて、第1章助産師が行う分娩期の基本的な考え方（p. 2-11）、第4章分娩第1期から4期間での経過に伴う診断・アセスメントとケア（p. 104-146） 大橋一友、佐々木くみ子、中嶋有加里、中野美佳、町浦美智子、村上明美、田村正徳
3. 助産学実習プレブック 助産過程の思考プロセス	共	2015年11月	医歯薬出版	担当箇所：責任編集および第1編 産婦のアセスメントとケア 初産婦と経産婦の分娩期の援助 高知恵、佐々木くみ子、佐保美奈子、古山美穂、町浦美智子、山田加奈子
4. ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護 第2版	共	2011年03月	ヌーベルヒロカワ	担当箇所：パート I VII女性の健康と家族看護（p. 105-115） 高橋真理、村本淳子、町浦美智子、他 24名
<b>2 学位論文</b>				
1. Experiences of pregnancy among Japanese teenagers : Decisions and perceptions of being a pregnant teenager	単	1997年06月	University of California, San Francisco, School of Nursing Doctoral Program	グラウンデッド・セオリー法を用いて、十代で妊娠を継続している妊婦17名を対象に妊娠中の主観的経験に基づく理論の構築を試みた。妊婦の主観的な経験は妊娠の継続を決意するまでの過程と妊婦としての生活から記述できた。
<b>3 学術論文</b>				
1. 妊娠中期以後の妊婦のケアへの関心と気分・感情との関連	共	2017年07月	第47回(平成28年度)日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション (2017)、7-10	妊娠中期以後の妊婦209名を対象に調査した結果、125名より回答があった。興味・関心のあるケアは妊婦体操、ヨガや呼吸法、リラクセス法であり、胎教コンサートへの関心もみられた。9割以上の妊婦が話を聴いてもらうことで気分の変化に対処していたが、音楽聴取・歌唱をしていた妊婦はPOMSの疲労が有意に低かった。 本人担当部分：研究指導・論文作成指導を行った。 宮本雅子、町浦美智子
2. NICU看護師のハイリスク妊婦への産前訪問における看護実践	共	2017年04月	日本新生児学会誌、23(1)、32-39	NICU看護師22名を対象に、ハイリスク妊婦の産前訪問におけるアセスメントや実践内容を明らかにすることを目的に半構造化面接を行った。その結果、8つのカテゴリーが抽出され、子どものイメージ化を促したり、ハイリスク妊婦のストレスや不安を和らげる看護実践を行っていた。本人担当部分：研究指導や論文作成指導を行った。 福井早苗、町浦美智子、佐保美奈子
3. 第2子出産後3か月間に母親が経験した子どもとの関わりに対する思い	共	2015年07月	母性衛生、56(2)、359-366	2人の子どもを育てる母親は産後1か月時には第1子と第2子それぞれの関わりでのバランスの悪さ、3か月時には2児とのかかわりの不十分さを感じていたが、子どもがきょうだいだと感じ、2児の育児の楽しさを発見していた。施設や地域での経産婦への育児支援を強化していく必要性が示唆された。本人担当部分：研究指導や論文作成指導を行った。 谷郷智美、町浦美智子、佐保美奈子
4. 開業助産師による退院後1か月健診までの初産婦の新生児の泣きへの応答性に対する援助	共	2015年06月	第17回日本母性看護学会学術集会 プログラム・抄録集 p. 73 (東京)	開業助産師6名に半構造的面接を行い、退院後の新生児の泣きへの応答性に対する母親への支援が必要であった事例を通して、訪問時期と回数、援助を必要と判断した場面、アセスメントの視点、具体的な援助内容を明らかにした。助産師は母親の過度な緊張とぎこちない育児行動をアセスメントし、新生児へのタッチングやマッサージを行いリラックスさせていた。新生児の泣きに対して母親の知識不足をアセスメントし、泣きのピークや昼夜のリズムをつけることを説明していた。 本人担当部分：研究指導、論文指導 森重圭子、町浦美智子、中嶋有加里
5. A literature review of the effects of singing intervention for healthy adults or patients with various health conditions	共	2014年03月	大阪府立大学看護学部 紀要、20(1)、101-111	妊婦への歌唱介入による研究実施に先立ち、さまざまな健康状態にある患者を対象とした歌唱介入の効果を文献検討した。1,795文献の内、5文献がRCTによる介入研究であり、対象者はCOPD、認知症、高齢者、パーキンソン病などの患者であった。歌唱の効果として部分的に不安の軽減やうつ状態の改善、QOLの向上などがみられたが、サンプルサイズが小さい

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
6. 第2子出産後3か月間に母親が経験した感情の変化	共	2014年03月	日本母性看護学会誌、14(1)、43-49	めにその効果の一般化は困難であった。 Masako Miyamoto, Michiko Machiura 2人の子どもを育てる母親14名に産後1か月時と3ヶ月時に面接した。その結果、母親は産後1か月時は第1子の育児経験から余裕を持ち育児に楽しさを感じる反面、慣れない2児の育児に大変さを感じていた。産後3か月になると生活のペースをつかむことで2児の育児を楽しんでいた。看護職者はこのような母親の感情の変化を踏まえては母親が自分なりの育児を確立していけるように支援する必要がある。 谷郷智美、町浦美智子
7. 在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	共	2013年07月	大阪母性衛生学会雑誌、49(1)、94-99	在日韓国・朝鮮人の男性41名、女性37名の若者(平均年齢26.45±3.77歳)の性に関する現状を調査した。性交相手がいる34名中いつも避妊しているのは10名のみであった。性知識得点は在日学生に比べて低く、伝統的価値観は高い傾向を示した。 椿知恵、町浦美智子、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子
8. 妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	共	2013年07月	大阪母性衛生学会雑誌、49(1)、67-72	妊婦485名より正しい運転姿勢についてWeb上で動画を視聴した教材に対する評価を得た。良いと評価したのは97%であり、動画で運転姿勢を客観的に見直すことができたことであった。改善点では正しい運転姿勢と間違った姿勢での衝突映像を比較したいとの意見があった。 中嶋有加里、山田加奈子、椿知恵、町浦美智子
9. 妊婦の全席シートベルト着用の意識づけを目指したWeb動画教材に対する妊婦による評価	共	2013年03月	大阪府立大学看護学部紀要、19(1)、93-102	妊婦教室に参加した妊婦とメールマガジンの妊婦読者に動画教材サイトを案内し、529名から評価を得た。自由記述回答の回答者数と延べ件数は、良かった点420名500件、改善点328名338件、情報提供の方法75名87件であった。内容分析の結果、98%の妊婦がよいと評価し、具体性58%、意外性16%、単純明快16%であった。改善点は動画編集18%、着用法の説明13%、衝突映像11%であり、家族や一般人への啓発や医療者による妊婦への指導を望んでいた。 中嶋有加里、山田加奈子、椿知恵、町浦美智子
10. 月経前症候群の症状を有する女性に対する呼吸法のリラクゼーション効果	共	2013年01月	母性衛生、53(4)、497-504	20~38歳の月経前症候群(PMS)を有する女性(呼吸群20人、対照群20人)を対象に呼吸法によるリラクゼーション効果を測定した。その結果、呼吸法実施後は副交感神経の指標である心拍変動のHFが有意に増加し、唾液コルチゾールは有意に低下した。気分調査票では「爽快感」が対照群より有意に増加した。よって呼吸法はPMSの女性に対してリラクゼーション効果をもたらすことが明らかになった。 大平肇子、町浦美智子
11. 妊娠前の20~30歳代就労女性の食習慣、やせに関する知識、価値観の実態 — やせ体型群と普通体型群の比較 —	共	2013年01月	母性衛生、53(4)、522-529	無記名自記式質問紙調査によりBMI18.5未満のやせ体型群95人とBMI18.5以上25未満の普通体型群339人について、食習慣とやせに関する知識、食事および健康に関する価値観を比較検討した。両群ともやせが次世代の健康に影響を及ぼすという知識の正解率は3割以下であった。やせ体型群は食事をする時の価値で健康を重視していたが、理想及び健康に良いと思う体重のいずれもBMI18.5未満の割合が普通体型群より有意に多かった。 美甘祥子、町浦美智子、佐保美奈子
12. 大学生の性行動およびライフスキルの実態	共	2012年03月	大阪府立大学看護学部紀要、18(1)、45-55	近畿圏の大学生811名の性行動とライフスキルの実態を質問紙調査により把握した。6割の学生が性交を経験していたが、交際相手のいる学生では9割であった。その中で確実な避妊をしているのは6割であった。目標設定スキルは交際相手のいる学生が、意志決定スキルは交際相手のいない学生が有意に高かった。女性は交際相手に自分の意思を伝えられていない傾向にあった。 林桐代、町浦美智子、佐保美奈子
13. 在日韓国・朝鮮人学生の性教育受講状況、性知識、伝統的価値観と性行動との関連	共	2012年01月	母性衛生、52(4)、522-528	在日韓国・朝鮮人学生85名を対象に質問紙調査を行った結果、友人との会話が長く、伝統的価値観が高い学生の性交経験率が有意に高かった。伝統的価値観と性交経験率の結果は予測に反した結果であった。 椿知恵、町浦美智子、佐保美奈子
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. Positive effects of singing on pregnant women's mood and feelings	共	2017年06月19日	31st International Confederation of Midwives Triennial Congress	月1回90分間の歌唱クラスに3回参加した5名の妊婦に、自宅でも歌唱し日誌をつけてもらい、その内容を分析した。歌唱クラス直後及び自宅でも歌唱後は楽

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
2. 成人先天性示疾患女性のリプロダクティブヘルスに関する文献検討	共	2017年06月1日	, Toronto, Canada 第19回日本母性看護学会学術集会	しい気分やリラックスしていた。さらに自宅での歌唱では胎児への関心や活気も高まっていた。今後、妊婦のケアとして歌唱を取り入れる有用性が示唆された。本人担当部分：研究指導。論文作成指導を行った。Masako Miyamoto, Michiko Machiura
3. The second report about effects of a nursing intervention program based on the transtheoretical model to decrease the menopausal symptom of climacteric women	共	2017年03月9日	The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) D1-3F/129, abstract P.84, Hong Kong	成人先天性心疾患女性のリプロダクティブヘルスに関する支援の現状や課題を検討した結果、妊娠や出産は医学的、社会的にも問題であること、妊産婦死亡例も報告されている。妊娠前からの管理が必要であるが、家族計画に関するニーズや具体的な支援の報告はみあたらなかった。本人担当部分：文献検討の指導 本末舞、渡邊香織、中嶋有加里、町浦美智子
4. 在留中国人女子学生のための婦人科受診行動支援プログラムの評価	共	2016年12月10日	第36回日本看護科学学会学術集会、PA-3-26、講演集、p.50	更年期症状軽減のために介入群32名に多理論統合モデル (Trans-theoretical model;TTM) に基づいて介入した(対照群は33名)。その結果、対照群の更年期症状に変化はなかったが、介入群では介入後1か月、2か月のSMI得点が介入前より有意に低くなっていた。本人担当部分：研究指導、論文作成指導を行った。Nobuko NANANISHI, Michiko MACHIURA
5. 妊娠中期以後の妊婦のケアへの関心と気分・感情との関連 -POMS 尺度を用いて-	共	2016年11月17日	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会 抄録集「(2016) p.168 (三重)	来日6か月未満の中国人女子留学生12名を対象に作成した30分程度のプログラム (DVD視聴、リーフレットの説明、質疑応答) を実施し、フォーカスグループインタビューによりその有用性を検証した。その結果、DVDの内容は良く理解でき、心の準備ができたとの発言があり、女性の身体の特徴、月経周期、性感感染症の内容はリーフレットで理解できていた。専門用語の一覧や中国語と日本語の併記の要望があった。プログラム実施により受診行動への心構えができたと言える。本人担当部分：論文作成指導 カルデナス暁東、斉藤早苗、辻本裕子、黒田裕子、町浦美智子
6. Effects of the nursing intervention program based on the Trans-theoretical Model on increasing physical activities of climacteric women	共	2016年03月	19th East Asian Forum of Nursing Scholars Abstract Book Poster Presentation p 18-25 p.741-742 (Chiba, Japan)	妊娠中期以後の妊婦209名を対象に調査した結果、125名より回答があった。興味・関心のあるケアは妊婦体操、ヨガや呼吸法、リラックス法であり、胎教コンサートへの関心もみられた。9割以上の妊婦が話を聞いてもらうことで気分の変化に対処していたが、音楽聴取・歌唱をしていた妊婦はPOMSの疲労が有意に低かった。本人担当部分：研究指導・論文作成指導を行った。 宮本雅子、町浦美智子
7. Changing of mood status following singing sessions among Japanese pregnant women	共	2016年03月	19th East Asian Forum of Nursing Scholars Abstract Book Poster Presentation p 15-2 p.616-617 (Chiba, Japan)	40～60歳の更年期女性に行動変容理論に基づく看護介入プログラムを作成し、介入群32名に1か月間適用し、対照群33名と行動変容レベル、身体活動、更年期症状について介入前と介入4週間後とその後4週間後に比較した。その結果、介入群と対照群の比較では身体活動に差はなかったが、介入群は全員が行動変容の準備期から実行期に移行した。また、介入群は介入4週間後に1週間後より身体活動は増加し、更年期症状は軽減していた。Nobuko Nkanishi, Michiko Machiura
8. NICU看護師のハイリスク妊婦への産前訪問における看護実践	共	2015年10月	第25回日本新生児看護学会学術集会 プログラム P.172 (盛岡市)	初めて出産する妊婦88名を対象に、25分間の歌唱セッション後の気分の変化をMood Check List-short form2 (MCL-S2) を用いて測定し、尺度の信頼性を評価した。その結果、楽しい、リラックスした気分が有意に増加し、不安は有意に低下した。尺度全体のCronbach's $\alpha$ 係数は0.67であり、下位尺度の楽しさは0.89、リラックスは0.86、不安は0.81であった。担当部分：研究指導、本人論文指導 Masako Miyamoto, Michiko Machiura
9. 妊娠糖尿病妊産婦へのケアにおいて助産師が困難だと感じた事例の特徴と対応	共	2015年10月	第56回日本母性衛生学会総会 母性衛生 56(3), p.249 (盛岡市)	NICUに勤務する看護師22名に半構成的面接を実施し、ハイリスク妊婦への産前訪問時の看護実践を明らかにした。NICU看護師は「母親の人物像」「不安内容」「母親の受け入れ状況」を情報収集し、「母親が子どものイメージができていない」ため、「イメージができれば不安が軽減される」とアセスメントする一方で、「イメージすることで不安になる」と考えていた。実施では「家族が子どもにできることを伝える」「気持ちを引き出すコミュニケーションを工夫」していた。実施後は「母親の不安が軽減できた」と評価する一方、「産科と情報共有ができていない」などと評価していた。本人担当部分：研究指導、論文指導 福井早苗、町浦美智子、佐保美奈子
9. 妊娠糖尿病妊産婦へのケアにおいて助産師が困難だと感じた事例の特徴と対応	共	2015年10月	第56回日本母性衛生学会総会 母性衛生 56(3), p.249 (盛岡市)	助産師10名 (平均年齢33.3±8.4歳) を対象に半構成的面接を行い、妊娠糖尿病妊産婦へのケアや保健指導で困難と感じた事例の特徴と対応について明らか

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
10. 妊娠中期と末期の生活スタイルと睡眠、血圧との関連	共	2015年10月	第56回日本母性衛生学会総会 母性衛生 56(3), p.177 (盛岡市)	にした。事例の特徴は<指導するが伝わらない><自宅で血糖コントロールができない><仕事や子どもを優先してしまう>など7カテゴリーで示された。対応は<栄養指導は栄養士に任せる><一般的な食事方法についてだけ説明する><子どもへの影響を通し、治療の重要性を認識してもらおう>など12カテゴリーが抽出された。本人担当部分：研究指導、論文指導 山田加奈子、町浦美智子、佐保美奈子、古山美穂
11. 妊娠前半期の妊婦の風疹感染に関する知識、感染予防行動と不安の実態	共	2015年06月	第17回日本母性看護学会学術集会 プログラム・抄録集 p.56 (東京)	妊娠中期と末期の生活スタイルと睡眠、血圧との関連を縦断的に明らかにした。妊娠22週以降の初産婦32名を対象に生活スタイル、睡眠の質、身体活動量、血圧測定、睡眠活動日誌の記入を4日間ずつ実施した。その結果、PSQI総合得点は妊娠中期と末期に睡眠障害あり群で有意に高かった。妊娠中期の活動量が高い妊婦は末期のPSQI得点が有意に低く、妊娠中期の昼寝時間が長い妊婦は、末期のPSQI得点が有意に高かった。PSQIと自宅血圧に関連はなかった。本人担当部分：研究指導、論文指導 東本幸代、町浦美智子、佐保美奈子
12. An educational program based on the health belief model for newly diagnosed type2 diabetes patients to promote self-care behaviors in Japan	共	2015年02月	18th East Asian Forum on Nursing Scholars Abstract book Poster Presentation p.425-426 (Taiwan, Taipei)	初産婦87名、経産婦74名(回収率27.7%)の妊娠前半期における風疹感染に関する知識、感染予防行動と不安の実態を明らかにした。4か月健診時の母親の平均年齢は32.4±4.7歳、風疹感染が胎児に影響することは妊娠前から約8割が知っていたが、不顕性感染や潜伏期間は約5割の母親が知らなかった。感染予防行動は67%が抗体価検査説明前には実施していなかった。妊娠中の不安は自分の抗体価がわからないことや感染しないかなどであった。抗体低値の場合、次子妊娠を希望しない理由により産後ワクチンを接種していない母親もいた。本人担当部分：研究指導、論文指導 松實真由、町浦美智子、中嶋有加里
13. Health and QOL of Chinese female students in Japan	共	2015年02月	18th East Asian Forum on Nursing Scholars Abstract book Poster Presentation p.257-258 (Taiwan, Taipei)	保健信念モデルに基づく教育プログラムを作成し、マッチングした13組の2型糖尿病と診断された患者を介入群と対照群に分けて、プログラムの効果を評価した。介入群のセルフケアの利益認識の得点は増加していたが、有意ではなかった。しかし、セルフケア行動は対照群より有意に増加し、体重減少も有意であった。本人担当部分：研究指導、論文指導 Yuko Yamamoto, Michiko Machiura, Chieko Hatamochi, Kyoko Tanaka
14. 在日中国人女性留学生の生活の質の実感とリプロダクティブヘルス	共	2014年11月	第34回日本看護科学学会学術集会 講演集 p.578 (名古屋)	在日中国人女性留学生96名の健康状態とQOLの関連を検討した。月経の知識は10点満点で平均5.8±2.0点、性感染症の知識は25点満点で平均10.9±4.2点であった。性感染症のうち、HIV/AIDS、淋病、梅毒は約7割以上が知っていたが、残り8疾患は10~50%が認識していた。33.3%が中国で産婦人科を受診したことがあり、日本での受診経験は13.5%であった。QOL得点と月経記録の有無や月経についての心配事の有無との関連はなかった。本人担当部分：研究指導、論文指導 Sanae Saitoh, Xiaodong Cardenas, Hiroko Tsujimoto, Yuko Kuroda, Michiko Machiura, Kimiyo Suehara
15. 長期に入院する統合失調症患者へのセラピューティックレクリエーションプログラムの実践と評価	共	2014年11月	第34回日本看護科学学会学術集会 講演集 p.392 (名古屋)	在日中国人女性留学生153名の生活の質の実感とリプロダクティブヘルスとの関連を把握した。WHOQOL26の全項目に回答した96名を分析した結果、平均年齢23.2±3.4歳、尺度得点の平均3.3±0.3点、各領域の平均は身体領域3.3±0.4点、心理的領域3.4±0.5点、社会的関係3.3±0.4点、環境的領域3.3±0.4点であった。これらの得点と年齢、在日期間との相関はなかった。中国人女性留学生のこれらの得点は日本人20~30歳女性より身体的領域、社会的関係が低い傾向にあった。本人担当部分：研究指導、論文指導 齊藤早苗、カルデナス暁東、辻本裕子、黒田裕子、町浦美智子、末原紀美代
16. 女子学生の月経に関する知識—日本人学生と中国人留学生の比較	共	2014年09月	第55回日本母性衛生学会総会 母性衛生 55巻3	精神科病棟に入院する統合失調症患者9名を対象に、看護師が実践するセラピューティックレクリエーションプログラムを作成及び実践し、参加観察と面接により患者の他者と交流する意欲に関する変化を記述し、プログラムの評価をした。その結果、Rehab尺度では全般的な行動得点、社会的活動性、言葉の技能、セルフケアが介入後に有意に改善した。これは患者が介入場面以外でも他者と交流する意欲を高め、適切な行動がとれたことを示し、プログラムの有用性があることが示唆された。本人担当部分：研究指導、論文指導 河野あゆみ、町浦美智子、松田光信
16. 女子学生の月経に関する知識—日本人学生と中国人留学生の比較	共	2014年09月	第55回日本母性衛生学会総会 母性衛生 55巻3	日本人学生1,132名と中国人留学生153名の月経に関する知識を比較検討した。月経に関する知識は10点

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
らー			号 p. 254 (千葉市)	満点で日本人学生4.0±1.8点、中国人留学生5.8±3.2点、月経の記録はそれぞれ48.3%、45.1%が記録しており、月経について気になることがある女性は59.7%と79.7%であった。留学による環境の変化を考慮した支援の必要性が示唆された。
17. 月経前症候群で悩む女性が実践したリラクセス呼吸法の体験の分析	共	2014年09月	第55回日本母性衛生学会総会 母性衛生 55巻3号 p. 171 (千葉市)	月経前症候群で悩む女性24名が実践したリラクセス呼吸法の体験を分析し、習慣化するための支援方法の検討を目的とした。1か月の呼吸法実施後、MDQの「指を切ったりお皿を割ったり失敗が多くなる」「勉強や仕事の能率が低下する」は有意に低下していた。呼吸法の実施は生活に合わせ方法を調整したり、慣れることでコツをつかんでいたが、慣れない頃の難しさなど継続上の課題もあった。本人担当部分：研究指導、論文指導 辻本裕子、斉藤早苗、カルデナス暁東、黒田裕子、町浦美智子、末原紀美代
18. 妊婦の電車利用時の不快症状及び首尾一貫感覚 (Sense of Coherence; SOC) と予防行動との関連	共	2014年09月	第55回日本母性衛生学会総会 母性衛生 55巻3号 p. 149 (千葉市)	妊婦の電車利用時の不快症状およびSOCと転倒や不快症状を予防する行動との関連を明らかにした。256名の妊婦予防行動実施群33名(12.9%)と非実施群223名(87.1%)の2群に分けた。多重ロジスティック回帰分析を行った結果、予防行動の実施には「腰が痛い」の症状増強、無職、妊娠後退職・休職、SOCの有意意味感得点の1点増加が関連していた。本人担当部分：研究指導、論文指導 須永由華、中嶋有加里、町浦美智子
19. Effects of the grandmothers' role experiences of supporting child care for the mothers on their lives in Northern Japan	共	2014年06月	International Confederation of Midwives 30th Triennial Congress CD-ROM (Czech Republic, Prague)	子育てをする母親を支援する祖母6名の経験を4回の看護介入プログラム後の面接調査により明らかにした。祖母は物理的、情緒的、情動的、評価的、そして父親に代わる代理的なサポートをしていた。そして祖母は自尊心の高まり、幸福感、健康的である、家族員のコミュニケーションがよくなったと感じる一方、現在の子育ては難しいなど不安や心配も抱えていた。本人担当部分：研究指導、論文指導 Sumi, Misawa, Michiko Machiura, Kazumi Nakayama
20. Development and evaluation of an audiovisual educational material to promote seat belt wearing among pregnant women in Japan	共	2014年06月	International Confederation of Midwives 30th Triennial Congress CD-ROM (Czech Republic, Prague)	妊娠中のシートベルト着用と正しいシートベルトの付け方を紹介した動画とリーフレットを作成しwebで公開した。アクセスした妊婦664名を対象に視聴前後で質問に回答してもらい、知識や意識の変化を評価した。その結果、後部座席でもシートベルトを着用するという妊婦が17.6%から63.7%に増加、妊娠中のシートベルト着用への不安は軽減、正しいシートベルト着用の知識は51.9%から88.3%に増加した。また、8~9割の妊婦がよい教材であると評価した。本人担当部分：研究指導、論文指導 Yukari Nakajima, Michiko Machiura, Kanako Yamada, Chie Tsubaki, Emi Tanji
21. 妊婦の電車利用時の不快症状と予防行動の実態	共	2014年06月	第16回日本母性看護学会学術集会 抄録集 p. 52 (京都)	妊婦256名(有効回答率45.4%)を対象に電車利用時の不快症状の変化や転倒および不快症状に対する予防行動を明らかにした。その結果、電車利用時に増強する症状は「疲れる」が82.8%、「腰が痛い」が51.5%であった。通勤電車で座席を確保できない妊婦では「疲れる」が有意に増強していた。予防行動として「優先席を選ぶ」は68.7%、「混雑の少ない時間を選ぶ」は53.1%が実施していた。本人担当部分：研究指導、論文指導 須永由華、町浦美智子、中嶋有加里
22. Effects of relaxation breathing method on reliving PMS Symptoms as a Midwifery care	共	2014年06月	International Confederation of Midwives 30th Triennial Congress CD-ROM (Czech Republic, Prague)	20~39歳の14名の女性を対象に月経前症候群の症状緩和のためにリラクセス呼吸法を助産師が指導し、その効果を心拍変動とMDQ (Menstrual Disorder Questionnaires) により測定した。その結果、MDQの変化はなかったが、副交感神経の指標であるHFは実施後に有意に低下した。よってリラクセス呼吸法は症状緩和に効果があることが示唆された。本人担当部分：研究指導、論文指導 Motoko Ohira, Michiko Machiura, Junko Muramoto
23. 中国人女性留学生の女性の健康に関する知識と行動	共	2013年12月	第33回日本看護科学学会学術集会 講演集 p. 675 (大阪)	月経を記録している女性は69名(45.1%)の内、月経について気になる女性の割合、月経に関する平均知識得点(6.0±1.87点)は記録していない女性より有意に高かった。性感染症の知識得点と性行為体験の有無には関連がなかった。以上のことから、知識の普及や自己の健康管理行動を支援する必要性が示唆された。本人担当部分：研究指導、論文指導 斉藤早苗、カルデナス暁東、辻本裕子、黒田裕子、町浦美智子、末原紀美代
24. 更年期女性の健康行動の増進に向けた健康行動記録ノートについて	共	2013年12月	第33回日本看護科学学会学術集会 講演集 p. 362 (大阪)	更年期女性13名を対象にフォーカスグループインタビューを実施し、健康行動の増進に向けた自己管理のための健康行動記録の内容や方法について検討し

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
25. 中国人女性留学生のリプロダクティブヘルスに関連する知識の実態調査	共	2013年10月	第54回日本母性衛生学会総会 母性衛生 54巻3号 p. 297 (さいたま市)	た。その結果、行動記録は必要だが、記録に対する迷いがあった。また記録ノートには簡便性や工夫や楽しさを求めており、行動記録を付けるには行動の種類や目的が必要と述べていた。更年期女性は健康行動を記録する習慣がないことから、記録することで健康状態が評価でき、行動持続へのモチベーションにつながると考えられた。本人担当部分：研究指導、論文指導 中西伸子、町浦美智子、斎藤早苗
26. 妊婦の飲料水摂取に関する実態	共	2013年07月	第15回日本母性看護学会学術集会 抄録集 p. 70 (仙台市)	近畿地区の中国人女性留学生229名を対象にリプロダクティブヘルスに関連する知識を自記式質問紙調査により把握した。153名(回収率66.8%)の平均年齢は22.8歳±3.25歳、平均在日期間は16.1±17.27か月であった。中国で性教育を受けた女性68.0%、月経に関する知識得点は平均5.8±2.25点(10点満点)、性感染症に関する知識得点は平均10.4±4.81点(25点満点)であった。以上のことから中国人女性留学性の知識に応じた看護支援が必要であることが示唆された。本人担当部分：研究指導 論文指導 齊藤早苗、カルデナス暁東、辻本裕子、黒田裕子、町浦美智子、末原紀美代
<b>3. 総説</b>				
1. 母性看護専門看護師教育の現状と地域母子保健への貢献	単	2201年11月	母子保健情報 68号 p. 45-49	妊娠中期252名、妊娠末期175名の妊婦を対象に飲料水摂取行動に関する調査を実施した。その結果、摂取不足群42.8%、摂取適正群51.2%、摂取過剰群5.9%であり、摂取回数8回以上は2割であった。摂取回数を増やし、必要な量?水分量が摂取できるように指導する必要性が示唆された。本人担当部分:研究指導、論文指導 大東千晃、町浦美智子、中嶋有香里
<b>4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 思春期女子の母親とその娘の健康行動に関する実態調査	共	2016年08月 ～2017年03月	科学研究費補助金学内奨励金	本稿では専門看護師とは、母性看護専門看護師教育課程の現状、母性専門看護師としての活動、母性看護専門看護師の地域母子保健への貢献について概説した。
2. 胎児・乳幼児の命を守る妊娠からの自動車利用時の安全教育プログラムの構築と実践	共	2013年04月 ～2016年03月	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	思春期女子〔高校1年生と2年生〕とその母親679組を対象に、やせ願望の有無ややせが将来の健康に及ぼす影響などに関する知識や健康行動を明らかにするために、質問紙調査を行った。その結果、回収率は女子生徒22.7%、母親24.9%であり、分析対象は121組とした。母親の平均年齢は46.3歳(SD3.4歳)であった。BMI18.5未満のやせの割合は、女子生徒21.5%、母親8.3%で女子生徒の割合が母親より有意に多かった。やせに関する知識では「やせたまま妊娠すると赤ちゃんが将来生活習慣病になる可能性が高い」の正答率は女子生徒28.1%、母親21.5%で最も低く約半数は「知らない」と答えていた。研究代表者：町浦美智子 共同研究者：本間裕子、谷郷智美、大西舞子
3. 更年期女性の健康増進に向けた行動変容を促す健康貯金ノートを用いた介入プログラム	共	2011年04月 ～2013年03月	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	妊産婦と家族が妊婦の全席シートベルト着用法、チャイルドシートの使用法を習得し、同乗する胎児・乳幼児の安全に対する意識向上を目指した教育プログラムを構築する。その効果を母子健康手帳の受け取り時、妊娠中期、産後の退院時に医療職者等により検証する。 研究代表者：中嶋有加里 共同研究者：椿知恵、山田加奈子、町浦美智子
4. 分娩介助技術としてのハンズオフ手法の実態と根拠に基づく会陰保護の再検討	共	2011年04月 ～2014年03月	科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究	更年期女性を対象に骨そしょう症の予防や健康増進を目指した介入プログラムを開発し、介入し、その効果を行動変容のプロセス、自己効力感、健康行動の増進、更年期に対する知識の側面から評価した。 研究代表者：中西伸子 共同研究者：町浦美智子、斎藤早苗
				ハンズオフ手法による会陰保護の実態を把握するために主に助産院で行われている分娩介助について参加観察や面接調査により明らかにした。その結果、妊婦との信頼関係の下、妊娠中の呼吸法や歩行、食事、会陰マッサージが分娩時のハンズオフによる会陰裂傷の予防に寄与しており、分娩時は陣痛に合わせて呼吸を整え、待つ姿勢の分娩を実施していた。 研究代表者：町浦美智子 共同研究者：中嶋有加里、椿知恵、山田加奈子

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年08月	国立大学法人 香川大学医学系研究科 看護学専攻 特別講義講師
2. 2017年04月～現在	日本思春期学会 代議員
3. 2017年02月	公立大学法人大赤府立大学大学院看護学研究科 博士後期課程 博士論文副指導 副査
4. 2016年12月	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 特別講義講師
5. 2016年04月～2017年09月	第19回日本母性看護学会学術集会 学術集会長
6. 2016年03月～2017年03月	一般社団法人日本助産学会 代議員
7. 2016年02月	国立大学法人香川大学 世界で活躍するグローバル医療人の育成事業 講演会講師
8. 2016年02月2020年02月	一般社団法人 日本看護学教育学会 評議員
9. 2015年04月～2016年03月	Japan Journal of Nursing Science Reviewer
10. 2015年04月～現在	公益社団法人岡山県看護協会教育研修 講師
11. 2015年04月～2017年03月	日本思春期学会 評議員
12. 2015年03月2017年03月	Joanna Briggs Institute (JBI) Kobe Linguistic Translation Center 翻訳アドバイザー
13. 2014年06月～2018年06月	一般社団法人 日本看護研究学会 評議員
14. 2014年04月～現在	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会 母性看護専門分化学会副委員長
15. 2013年10月～現在	公益社団法人 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員
16. 2013年04月～現在	一般社団法人 日本看護研究学会雑誌 専任査読委員
17. 2013年04月～現在	一般社団法人 日本母性看護学会 理事
18. 2013年04月～現在	一般社団法人日本助産学会 日本助産学会誌 専任査読委員
19. 2013年03月～現在	公益社団法人日本看護科学学会 代議員